

報告

大学教育における TGG 活用の試み -拓殖大学商学部国際ビジネス学科の事例 (2019 年度関東支部大会 基調講演(2) 報告)

中村 竜哉

2019 年 6 月 9 日に東京都英語村 (TGG=TOKYO GLOBAL GATEWAY) で開催された関東支部大会での講演の資料を掲載します。この資料は、関東支部大会予稿集に掲載した原稿を著者に再構成して頂いたものです。

大学教育における TGG 活用の試み -拓殖大学商学部国際ビジネス学科の事例-

拓殖大学商学部長 中村竜哉

拓殖大学商学部は、2019 年 4 月 6 日(土)10 時から 14 時半まで、TOKYO GLOBAL GATEWAY(TGG)にて、国際ビジネス学科新入生 150 名を対象にしたオリエンテーションを開催しました(当日参加した新入生は 142 名でした)。この取り組みは、大学教育において TGG を活用した第 1 号案件とされています。

なぜ、拓大商学部はオリエンテーションの場として TGG を活用したのでしょうか。それは、4 つの目的を達成するためのスタートの場として TGG を位置付けたからです。4 つの目的とは、「学生がグローバル人材の素養を身につけること」、「学生がビジネスシーンで使えるための英語を修得すること」、「学生が自分のキャリアを描くこと」、「学生が専門科目を学ぶためのモチベーションを持つこと」です。

拓殖大学商学部のカリキュラムには、グローバル人材の素養を身につけるための科目として、1 年生向けに『インターカルチャー研修』が設定されています。この科目は、海外の学生との交流等を体験し、異文化理解を学ぶ目的があります。学生の財政的な負担が軽くなるように、韓国や台湾での研修を行っています。最近はこの科目を履修する学生が激減しています。その理由は、事前事後の座学や振り返りの学修が面倒であること、韓国等の近隣諸国へは安価に旅行ができるようになったことがあげられます。そこで、拓大商学部では、1 年生向けに、楽しく学修でき、さらに安価に気軽に、国内で外国人と交流でき、異文化理解ができる場はないかと探していました。検討の結果、オリエンテーションにおいて TGG を活用することになりました。



図1 TGG におけるオリエンテーションの内容

TGG におけるオリエンテーションは、図1にあるような順で実施されました。①チームビルディングでは、まず英語能力がほぼ同じ水準にある学生 8 人と、エージェントと呼ばれるイングリッシュスピーカーがチームを構成します。エージェントは、流暢な英語運用能力・高度なファシリテーションスキル・人間性を備えており、施設内の移動時も学生の英語での発話を促す役割を演じます。学生は、実際のプログラムを体験する前に、英語で自己紹介やアイスブレイクを行います。②アトラクション体験では、エアポートゾーン、ホテルゾーン、トラベルゾーン、キャンパスゾーンに分かれており、グループはこれらのうちの 1 つのゾーンを体験します。コミュニ

ケーションはすべて英語で行われます。③ランチプログラムでは、一緒にプログラムを体験したエージェントと、各学生が持参したランチを食べながら英語でコミュニケーションします。カジュアルで和やかな雰囲気の中で発話することで、英語での雑談対応力を鍛えるという目標があります。④アクティブイマージョン体験では、「東京の魅力を紹介する」「企業を分析して投資先を考える」などのテーマが与えられます。グループごとに調べて、まとめて、英語で発表をします。⑤振り返りでは、一日一緒に過ごしたエージェントとともに、体験プログラムを振り返ります。ここでは、今後の英語学修に活かすために、学んだこと、感じたこと、自分の弱点などを見つめ直します。

回答 学生	とても 好き	好き	あまり好き ではない	好きでは ない	合計
日本人	26名	69名	23名	2名	120名
留学生	7名	12名	3名	0名	22名
合計	33名	81名	26名	2名	142名

表1 質問「あなたは英語が好きですか」への回答

回答 学生	とても必 要	必要	あまり必要 ではない	必要 ではない	合計
日本人	78名	40名	2名	0名	120名
留学生	13名	9名	0名	0名	22名
合計	91名	49名	2名	0名	142名

表2 質問「英語は将来必要であると思いますか」への回答

回答 学生	とても刺激に なった	刺激にな った	あまり刺激に ならなかった	刺激に ならなかった	合計
日本人	77名	42名	0名	0名	119名
留学生	16名	6名	0名	0名	22名
合計	93名	48名	0名	0名	141名

表3 質問「TGGにおける経験は英語学修の刺激になったか」への回答

表1、表2、表3は、TGGにおけるオリエンテーション終了直後に、参加した学生にアンケート調査した結果を表しています。「英語が好き」「英語は将来必要である」「TGGにおける経験は今後の英語学修の刺激になった」という回答が多いという結果になりました。

今後の拓大商学部の課題は、TGGにおける経験で刺激された学生の学修へのモチベーションをどのように維持して、英語や専門科目の学修成果に結びつけるかになります。機会がありましたら、追跡調査報告をさせていただきたいと思います。

受付日 2019年8月28日、受理日 2019年9月14日

 拓殖大学
Takushoku University

**「大学教育におけるTGG活用の試み」
-拓殖大学商学部国際ビジネス学科の事例-**

 2020
TAKUSHOKU
NEW ORANGE
PROJECT

拓殖大学は創立120周年を迎えます

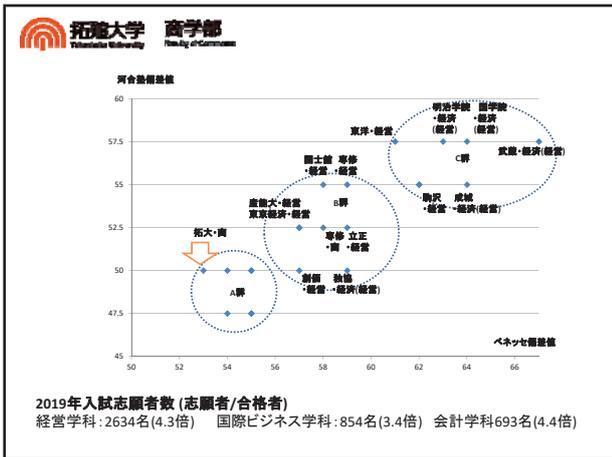
**拓殖大学商学部長
中村竜哉**
(中小企業診断士・FP1級
・CFP・証券アナリスト)

拓殖大学の学部学生数は8,817名。院生306名。

- ・5学部
- ・**商学部1学年の定員は600名(経営学科380名・国際ビジネス学科150名・会計学科70名)**
- ・政経学部(政治学科・経済学科)
- ・外国語学部(英米語学科・中国語学科・スペイン語学科)
- ・工学部(機械システム工学科・電子システム工学科・情報工学科・デザイン学科)
- ・国際学部(国際学科)

- ・6大学院
- ・11研究所

 拓殖大学
Takushoku University



目次

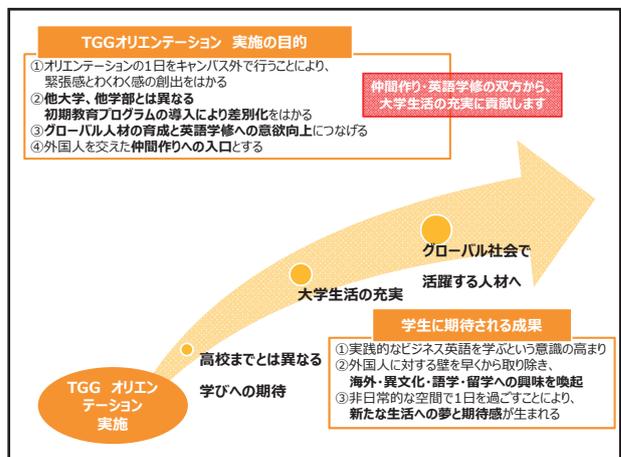
1. どのようにTGGにおいてオリエンテーションが実施されたか？
2. なぜTGGを活用したのか？
3. TGGでオリエンテーションを行った結果、どうなったか？

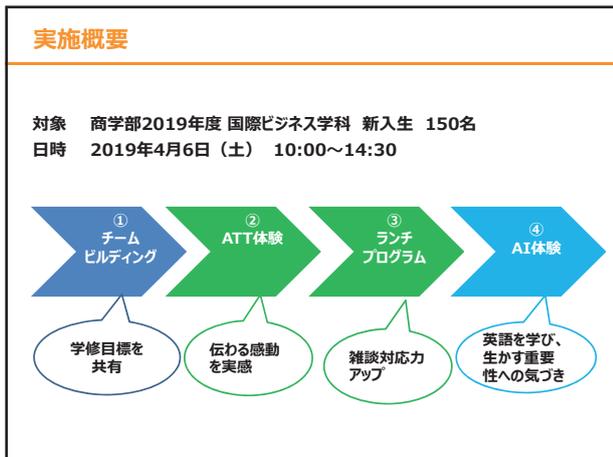
・話題提供としてお聞き下さい。

1. どのようにTGGにおいてオリエンテーションが実施されたか？

**拓殖大学 商学部
国際ビジネス学科 2019年度 新入生
オリエンテーション実施概要**

2019年 3月29日
株式会社 TOKYO GLOBAL GATEWAY





想定タイムスケジュール

時間	内容	所要時間	体験場所
10:00~10:15	入場・点呼	15分	1階エントランス
10:15~10:45	①TGGチームビルディング[英語]	30分	1階グローバルステージおよびエントランス
11:00~12:00	②TGG アトラクションエリア体験[英語]	1時間	2・3階 ATTエリア
12:00~13:00	③移動・昼食・ランチプログラム[英語]	1時間	2・3階 AIエリア
13:00~14:00	④TGG アクティブイマージョンエリア体験[英語]	1時間	2・3階 AIエリア
14:00~14:30	⑤TGG フィードバック[英語]	30分	2・3階 AIエリア
14:30~15:00	⑥ 拓殖大学教員によるまとめ[日本語]	30分	1階エントランス

① チームビルディング [英語]

①~③ (④) のプログラムでは、8名の学生に1人、エージェントと呼ばれるイングリッシュスピーカーが帯同します。

流暢な英語運用能力・高度なファシリテーションスキル・人間性を備えた人材が、施設内の移動時も学生の英語での発話を促します。

チームビルディングでは、実際のプログラムを体験する前に、自己紹介やアイスブレイクを行うことで、緊張を解きほぐします。

イングリッシュスピーカー

自己紹介・アイスブレイクのほか、当日の目標設定など相互理解を深める

② アトラクションエリア体験 [英語]

グループごと異なるプログラムを体験

エアポートゾーン

ホテルゾーン

トラベルゾーン

キャンパスゾーン

各ゾーンで行われるアクティビティの流れ

イングリッシュスピーカー

③ ランチプログラム [英語]

一緒にプログラムを体験したエージェントと、各自が持参した昼食を食べながらコミュニケーション。カジュアルで和やかな雰囲気の中で発話することで、英語での雑談対応力を鍛えます。

エージェントが、和やかにファシリテーション

緊張せずに英語で話せる!

④ TGG アクティブイマージョン

プログラムは例・別紙で参照ください。グループごと異なるプログラムを体験

CLIL : Content and Language Integrated Learning 「内容言語統合型学習」

例：東京の魅力を紹介しよう

「外国人に東京の魅力を紹介する」ための映像などを作成
 訪日外国人への紹介を通して観光スポットをアピールする
 東京オリンピックに向けた「おもてなし」の心を育む

例：企業を分析して投資先を考えよう

グローバル企業（外資系金融、総合商社等）と連携
 豊富かつリアルなデータ・素材
 英語で実践型の金融教育とロジカルなプレゼンを実践

⑤ 振り返り・フィードバック[英語]

一日一緒に過ごしたエージェントとともに、体験プログラムを振り返ります。学んだこと、感じたこと、自分の弱点などを見つめ直し、今後の英語学修に活かします。

エージェントが、体験プログラムの振り返り

意外とアトラクションの方が緊張した！なぜだろう？

13

⑥ 拓殖大学の教員によるまとめ[日本語]

TGGの体験をうけて、先生から「グローバル人材に必要なコミュニケーション力の重要性」「ビジネスで求められる英語の修得」について、お話しします。

<期待される成果>

- ▼オールイングリッシュ、リアルな環境のなかでの発話を繰り返すことで英語運用力の必然性に気づき、英語学修への動機づけとなること
- ▼本日の学びを、これから始まる大学生活のなかで生かしていただけるよう意識づけること

14

「2019 拓殖大学国際ビジネス学科 新入生オリエンテーション」約5分

- 映像をご覧ください。
- 拓殖大学商学部HPからも見られます。

2. なぜTGGを活用したのか？

- (1)グローバル人材育成の場
- (2)オリエンテーションの場
- (3)英語教育の場
- (4)キャリア教育の場
- (5)(英語に限定せずに)専門科目を学ぶモチベーションを持つ場

(1)グローバル人材育成の場

(A) 真にグローバルな拓殖人材育成(120周年記念、オレンジプロジェクト)

(B) オープンキャンパス等で、受験者や保護者から「海外研修、留学の機会」について、かなりの頻度で質問される。

⇒仕掛けはいろいろと用意している。特に、短期研修と単位認定。しかし、あまり利用されない。

⇒グローバルな(拓殖)人材育成に関して、どんな効果があるのか？

⇒海外でなければ効果がないのか？国内では効果が得られないのか？

(A) 真にグローバルな拓殖人材育成 (120周年記念、オレンジプロジェクト)

2020 TAKUSHUKU NEW ORANGE

拓殖大学は創立120周年を迎えます

[国際的視野 × タフな人間力]

積極的 課題を発見する

国際的な視野を持つ 解決にチャレンジする

国内外の人々と協働する タフな人間力

真にグローバルな「拓殖人材」育成

 **拓殖大学**
Takushoku University

< 建学の精神 >
積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格を具えた有為な人材の育成

拓殖大学は1900(明治33)年、桂太郎公爵により台湾協会学校として台湾開発に貢献しうる人材の育成を目的に設立されました。

単なる国際交流ではない、異なる文化や生活様式の人々と共に生きること、つまり一つの地球上に共生する同じ人間としての共通意識の上立った視点をもつ人材が必要とされています。

 **拓殖大学**
Takushoku University

< 教育目標 >
・世界のあらゆる民族・人種との共存、ならびに相互信頼を実現する柔軟な理解力、豊かな受容力を備えた人材の育成

・激動する国内外の情勢下にあつて、事柄の本質を冷静かつ的確に把握し、確固たる信念をもって行動するための洞察力と決断力を備えた人材の育成

・人間社会が直面する課題の解決に率先して立ち向かう開拓精神にあふれ、かつ、そのために必要な知力と体力を備えた実践的な人材の育成

「グローバル人材育成戦略」
(2012年6月4日)

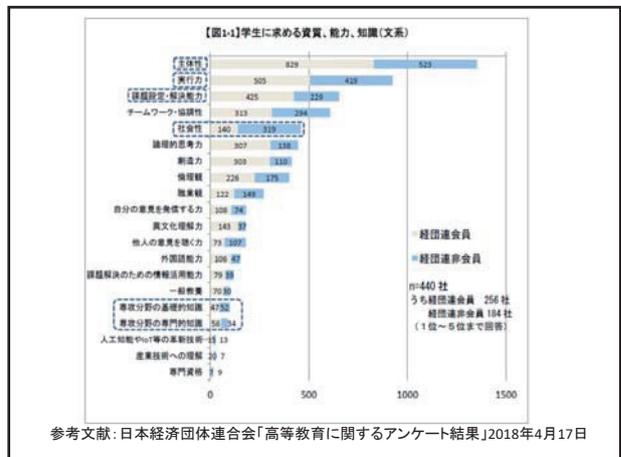
- グローバル人材に必要な要素
要素 I: 語学力・コミュニケーション能力
要素 II: 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
要素 III: 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー
- 幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと(異質な者の集団をまとめる)リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等

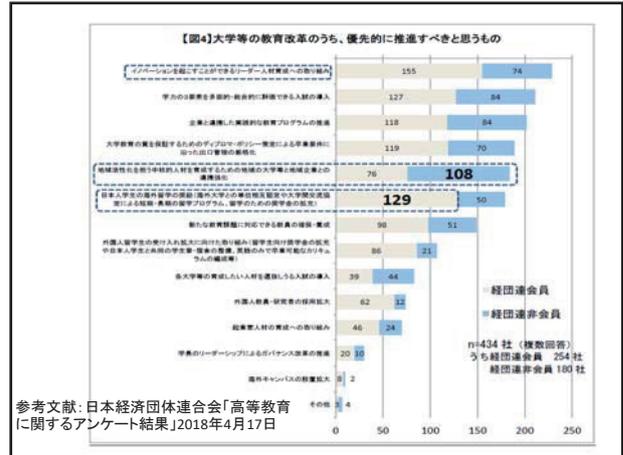
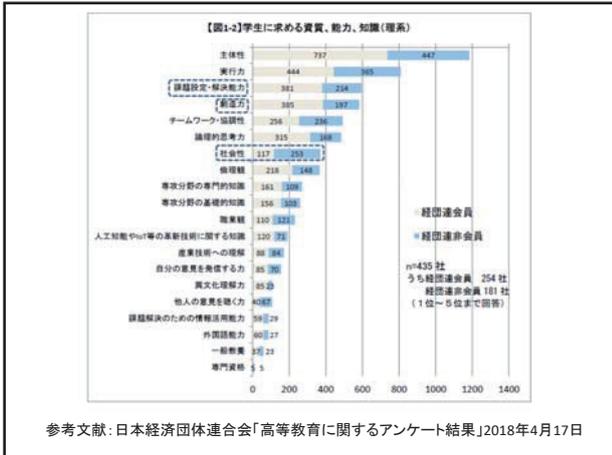
「グローバル人材育成戦略」

- 測定が比較的容易な要素 I (「道具」としての語学力・コミュニケーション能力)を基軸として(他の要素等の「内実」もこれに伴うものを期待しつつ)、グローバル人材の目安を(初歩から上級まで)段階別に表示すと、例えば、以下のようなものが考えられる。
 - ① 海外旅行会話レベル
 - ② 日常生活会話レベル
 - ③ 業務上の文章・会話レベル
 - ④ 二者間折衝・交渉レベル
 - ⑤ 多数者間折衝・交渉レベル

日本経済団体連合会「高等教育に関するアンケート結果」(2018年4月17日)

- 論理的思考力や意見の発信・傾聴力、情報活用能力、外国語能力なども一定のポイントを得ており、基本的な能力に基づく課題解決能力等が求められていることがわかる。
- 経団連会員企業からは「日本人学生の海外留学を奨励する」という意見が多く、あらためてグローバル人材へのニーズが示された。
- 「グローバル事業で活躍する人材」





(B)受験生は何を基準にして志望校を決めるのか?

1. 偏差値、倍率
2. 交通アクセスの良さ
3. カリキュラム(実務対応、資格検定試験対応)
4. 就職の良さ
5. **海外研修、留学の機会**
6. キャンパス生活の充実

海外研修、留学の機会

- 商学部では、海外研修や留学に関していろいろなお仕掛けを用意した。
- 特に、グローバル人材育成推進会議「グローバル人材育成戦略」(2012年6月4日)にある要素Ⅲを意識して、「インターカルチャー研修」を設定した。
- これは、初めて海外を経験する学生のために、選択した外国語を問わず、安価に参加できることを特色として設定した。

⇒しかし、安価で気楽に行ける韓国や台湾での研修のため、学生は自分たちで海外旅行で経験してしまう。参加者激減。

多彩な制度で留学をサポート 拓殖大学海外留学プログラム TUSAP

英語をはじめとする諸言語の語学力とコミュニケーション能力、そして異文化に対する理解力、グローバルな人材に求められる力が身につくプログラムです。

TUSAP: Tokai University Study Abroad Programs

インターカルチャー研修 [約1週間]

産科大(韓国)、専大(台湾)で異文化の歴史や文化、社会に触れ、日本との違いを体験することで海外へと視野を広げます。紙学習・短期間で参加しやすく「はじめての海外」にもぴったりです。

短期研修 [約4週間]

ポートランド州立大(アメリカ)またはドミニオンイングリッシュスクールズ(ニュージーランド)で英語(英語)を中心とした授業に力を入れています。ホームステイでの体験を通して生の英語を学ぶことができます。

長期研修 [6~8ヵ月]

英語圏・中国語圏・スペイン語圏の産科大で研修を行います。語学力を伸ばします。現地の文化や習慣を学ぶ異文化学習の機会も、現科での成績は本学での成績として評価でき、奨学金を受け取ることができます。

交換留学 [6ヵ月~1年]

世界70国・地域の指定校で実施。留学生は現地に特化した講義または専門分野に関する科目を受講します。休学・留年せずに1年程度の留学が可能です。留学期間の学費が免除されるほか、奨学金を受け取ることができます。

外国人研修生奨学金

第二外国語の修得を目的とした外国人留学生を支援する。給付奨学金制度。学生自身が「英・米」を目指す研修(3~6週間)について、審査のうえ支援されます。

「インターカルチャー研修」の目的を達成でき、新入生が入学した直後に実行できるプロジェクトはないか? ⇒TGGにおけるオリエンテーションはどうか?

(2)オリエンテーションの場として活用

- 新入生が新しい環境に適應するための研修等に対して拓殖大学では予算が配分されている。
- 「歴史や文化、社会に触れ、日本との違いを体験することで海外へと視野を広げられる」。

(3) 英語教育の場として活用

- 英語は2年間にわたり8科目(1単位半期科目)も必修。何が出来るようになるのか？
- 商学部の教育上の目標である「ビジネスシーンで使える外国語の修得」をめざす。
↓授業デザインを重視。
- 「誰が」「何を」「どういう文脈で」学修するのかを検討した。
- 置かれた環境においてアウトプット(成果)も変わる。英語学修に適した場か不向きな場か？
- 英語が嫌いな人や苦手な人でも、英語の学修に適した場に置いてあげる。
- 商学部の学生にとって、意味のある文脈で英語を学ぶ。

卒業要件 (126単位) の内訳

- ①専門科目(すべての学生60単位)：専門科目を深く学ぶ。
 - ・経営(経営、経営情報、流通・マーケティング)
 - ・国際ビジネス
 - ・会計
- ②教養科目(日本人20単位、留学生10単位)：専門科目以外の科目を学んで、視野を広くする。
- ③外国語科目(日本人16単位、留学生26単位)：ビジネスシーンで使える外国語を身に付ける。留学生は特に日本語をしっかりと学んで、専門科目を日本人学生と同じレベルで受講する。
 - ・第一外国語8単位(留学生は日本語18単位)
 - ・第二外国語8単位(留学生は英語8単位)

卒業要件 (126単位) の内訳

- ④初期教育科目(6単位)：大学生(そして社会人)の学び方を学ぶ。
 - ・スタディスキル2単位
 - ・情報リテラシー4単位
- ⑤ゼミナール科目(8単位)：学びの集大成としてのゼミナール論文、卒業論文。
 - ・2～4年生ゼミ開講。
- ⑥自由科目(16単位)：将来像に沿って自由に学ぶ。

学生のブラックボックス化⇒いくら教員がFD活動して授業の方法がうまくなくても、学生の成果が上がらない。

・アウトプットを管理しても思い通りのアウトプットは出力されない。

・学生に対してわかりやすい授業をしよう。
・カリキュラムを変更しよう。



アウトプット(成果)
・テスト・試験
・資格・検定試験
・レポート、論文 など



教員がインプット(入力) → 学生の多様化 →

思い通りのアウトプットが出ない

・学生が多様化し、何を入力すれば、何が出力されるかという教員の認識との間にズレが発生。
・ブラックボックス状態では、インプット段階で工夫しても思い通りのアウトプットは出力されない。

解決すべき問題(課題)は学生のブラックボックス化

- 学生のブラックボックス化⇒いくら教員がFD活動して授業の方法がうまくなくても、学生の成果が上がらない。
- プロセスマネジメントの考え方を援用して解決しよう。
- 「決断経験」「小さな成功体験」「小さな失敗体験」「学ぶ場が重要」

プロセスマネジメント

- ①目標や役割について認識が不足している。
 - ・実は成果が上がらない原因の3～4割。
 - ・グループ学修で目標と役割を持つ。
- ②学修の進め方が分からない。
 - ・成果が上がらない原因の3～4割。
 - ・学び方を学ぶ。
- ③能力が足りない。
 - ・実は成果が上がらない原因の1～2割。
- ④報酬や評価が足りない。
 - ・努力が評価に結び付く。
 - ・小さな成功体験と失敗体験を繰り返す。

(4)キャリア教育

- ・「自分の将来像を描く」
- ・「自分で考える」
- ・「自分から行動する」
- ・「必要ならば他人を巻き込む」
- ・自己肯定感を持つ。

(5) 専門科目を学ぶモチベーションを持つ場

- ・ 専門科目を初めて学ぶ。
- ・ 商学部(あるいは文系学部)の初期教育は何を学ぶかが難しい。

3. TGGで1年生のオリエンテーションを行った結果どうなったか？

・アンケート調査をしました。Q1～Q5はオリエンテーション前に、Q6は後に回答してもらいました。

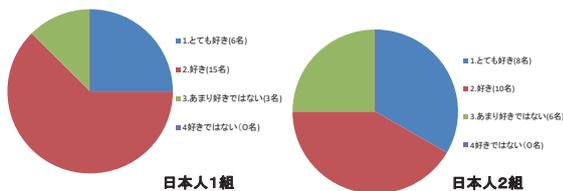
- Q1:英語が好きか？
- Q2:学校で英語を使うか？
- Q3:学校以外で英語を使うか？
- Q4:英語は必要か？
- Q5:海外に行ったことがあるか？
- Q6:TGGにおける経験は今後の英語学修の刺激になりましたか？

能力別の英語クラス

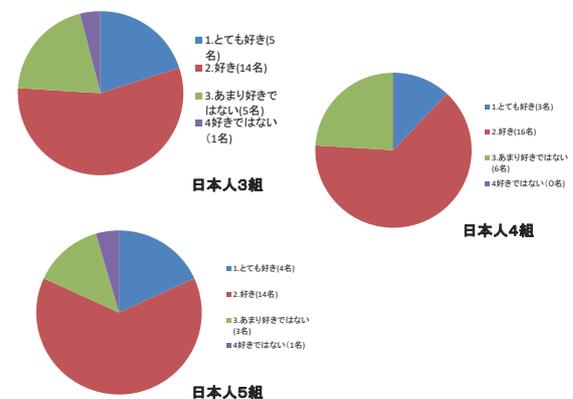
クラス	点数(100点満点)	クラス	点数(100点満点)
日本人1組(24名)	80～92点	留学生1組(7名)	76～92点
日本人2組(24名)	72～78点	留学生2組(7名)	64～70点
日本人3組(25名)	66～72点	留学生3組(3名)	54～62点
日本人4組(25名)	54～64点	留学生4組(5名)	32～50点
日本人5組(22名)	28～54点	-	-

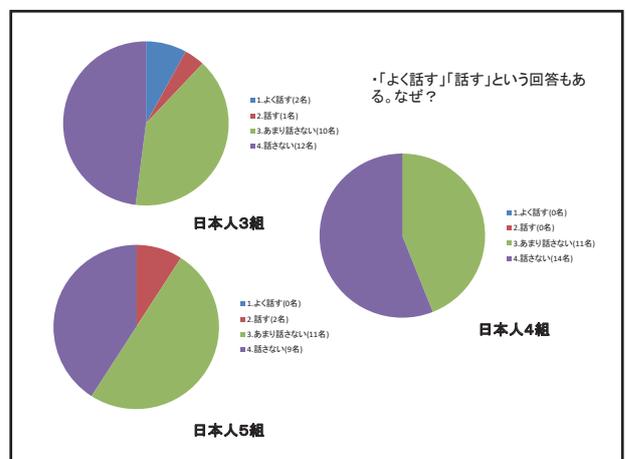
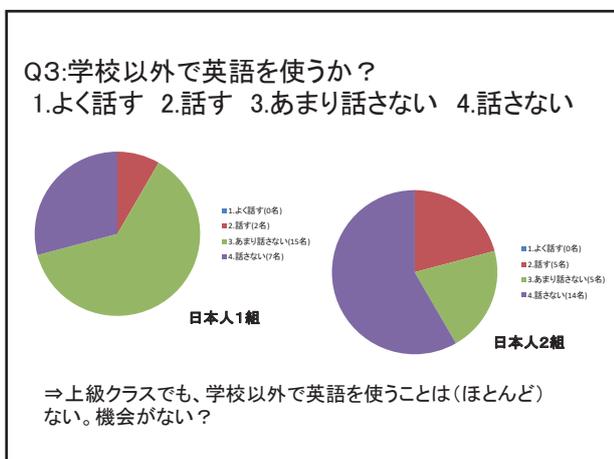
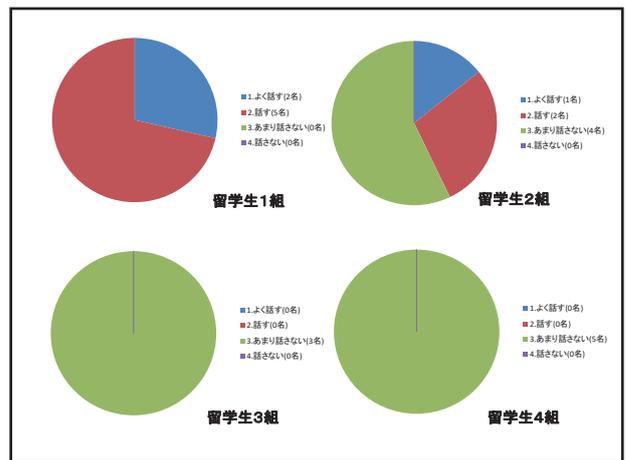
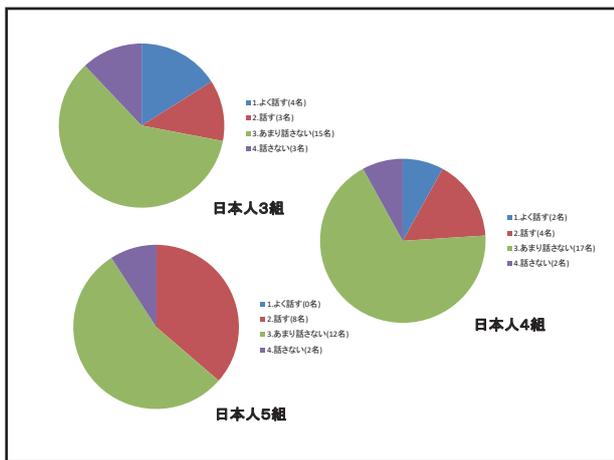
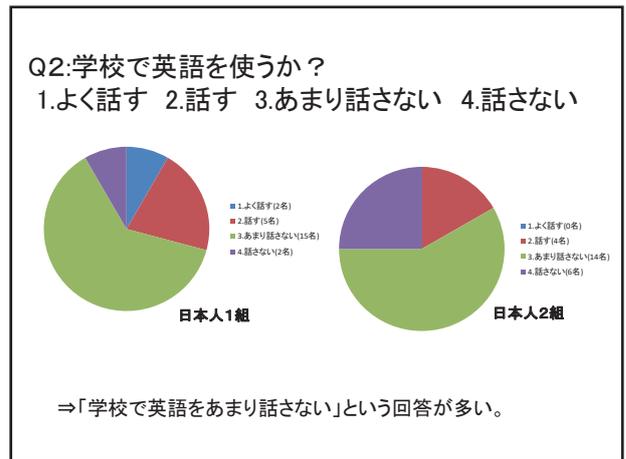
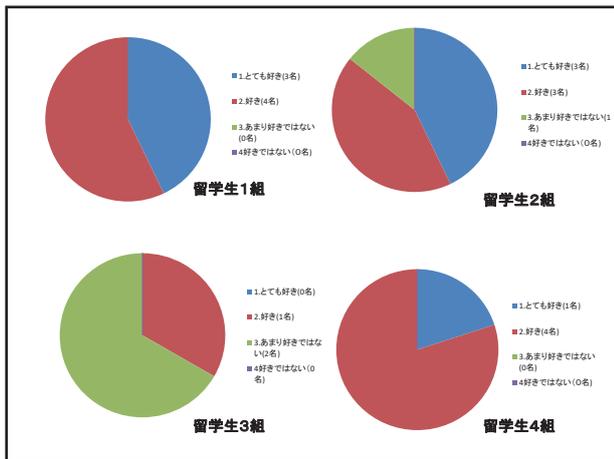
Q1:英語が好きか？

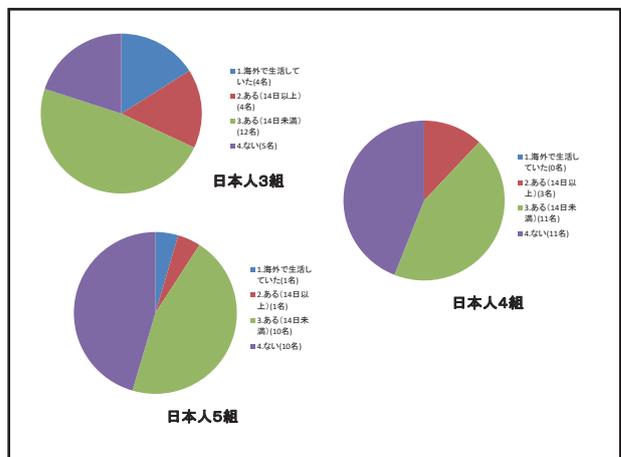
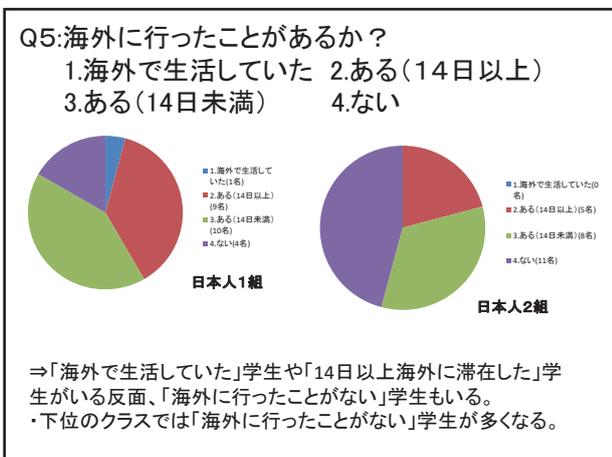
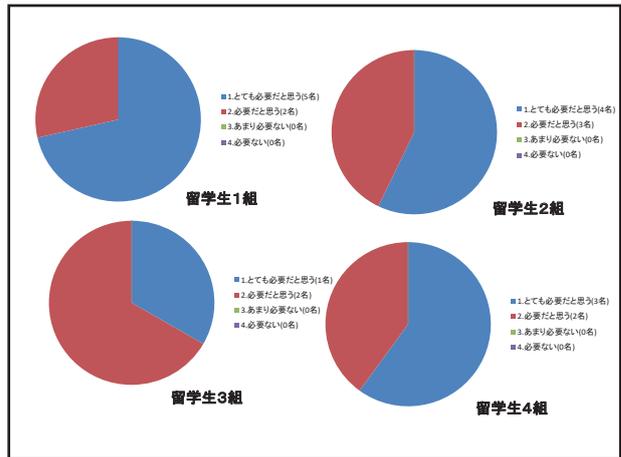
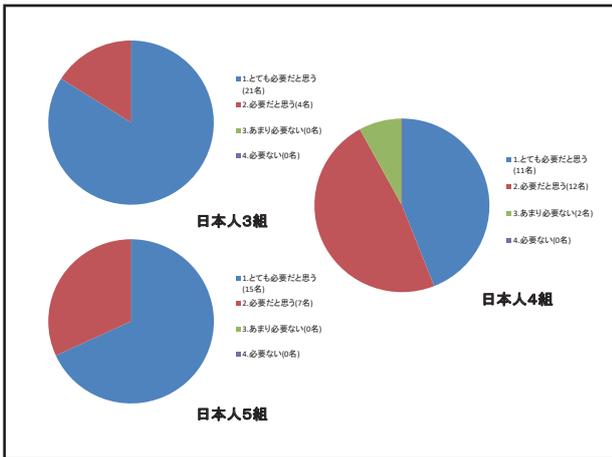
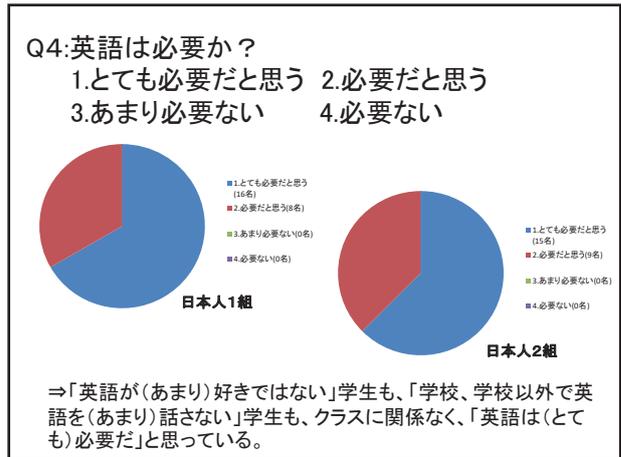
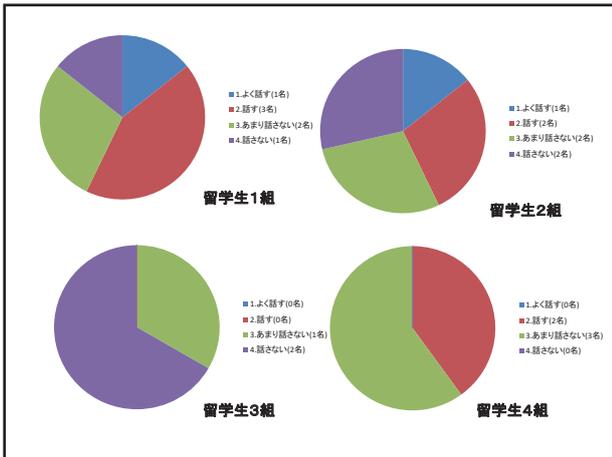
- 1.とても好き 2.好き 3.あまり好きではない
4.好きではない

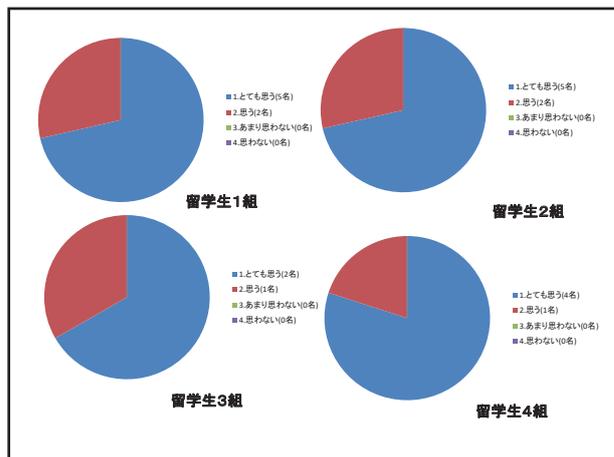
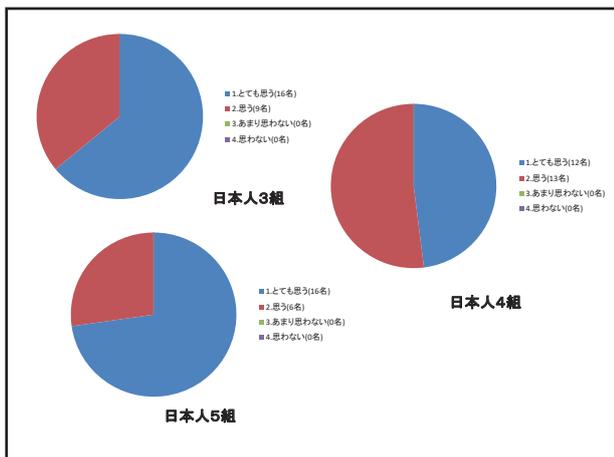
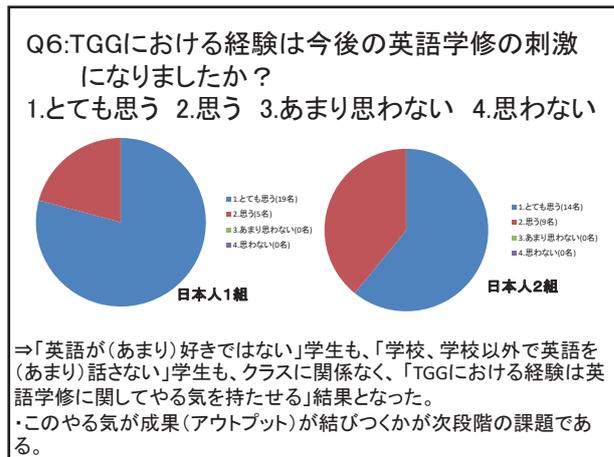
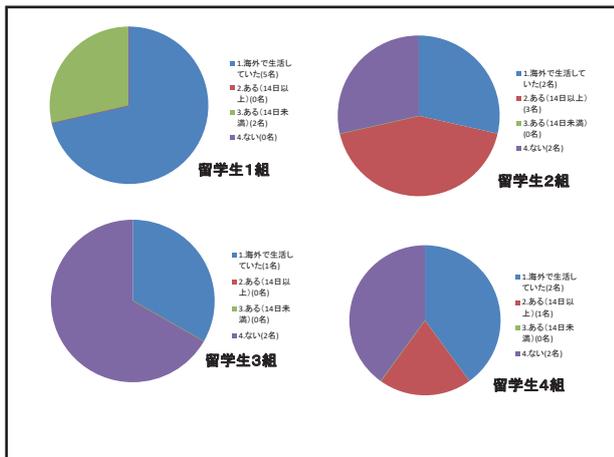


⇒上級クラスに限らず、どのクラスでも「英語が好き」という回答が多い。









結論に代えて-アンケート結果(1)-

- Q1:英語が好きか?
⇒上級クラスに限らず、どのクラスでも「英語が好き」という回答が多い。
- Q2:学校で英語を使うか?
⇒「学校で英語をあまり話さない」という回答が多い。
- Q3:学校以外で英語を使うか?
⇒上級クラスでも、学校以外で英語を使うことは(ほとんど)ない。機会がない?
- Q4:英語は必要か?
⇒英語が(あまり)好きではない学生も、学校、学校以外で英語を(あまり)話さない学生も、クラスに関係なく、「英語は(とても)必要だ」と思っている。

結論に代えて-アンケート結果(2)-

- Q5:海外に行ったことがあるか?
⇒海外で生活していた学生や14日以上海外に滞在した学生がいる反面、海外に行ったことがない学生もいる。
- ・下位のクラスでは海外に行ったことがない学生が多くなる。
- Q6:TGGにおける経験は今後の英語学修の刺激になりましたか?
⇒英語が(あまり)好きではない学生も、学校、学校以外で英語を(あまり)話さない学生も、クラスに関係なく、TGGにおける経験は英語学修に関してやる気を持たせる結果となった。
- ・このやる気が成果(アウトプット)が結びつかが次段階の課題である。